

委員提言「求められる中間支援について」  
～市民活動支援施設を利用して感じる事～

平成 25 (2013) 年 8 月 30 日  
第 6 期小田原市市民活動推進委員会第 3 回委員会  
神馬純江

#### 日々の活動と利用の現状

先日共有した小田原市の市民活動支援施設を利用している、自身が深くかかわる主な団体は以下の通り。

- (環境・健康) エコロジカルコミュニティあおいほし (「あおいほし」) 1996 年設立
- (国際交流・支援) KHM(ちえのわハウス)1993 年、WE21 ジャパンおだわら 2001 年
- (文化芸術) 小田原文化サポーター 2009 年

このうち、小田原文化サポーター以外は独自拠点がある。諸施設ができるまでは、地区公民館やけやき (当時中央公民館)、私立の施設も利用していた。

#### おだわら市民活動サポートセンター (サポセン)

- ・ 400 もの団体が登録しており、ジャンルも様々で、情報も多岐にわたる。国際交流ラウンジや女性プラザとの重複登録も多い。サポセン主催の新年交流会等に参加しているが、全体を把握するまでには至っていない。
- ・ 「サポセンまつり」(会場は「マロニエ」という別の場所) は定着してきて、宣伝もしてもらえるので活動の励みになるが、当日は各団体が自分のブース運営に精一杯で、交流をしたり、一般来場者に「市民活動とは」「サポートセンターとは」を知らせる時間はない。
- ・ 一番の利用は印刷目的 (市内施設で最も安い) だが、情報収集の為、特に用が無くても立ち寄るようにしている。

#### 国際交流ラウンジ (ラウンジ)

- ・ 国際協力関係のチラシ等が充実している。オープンスペースで、団体が重なると会議がしづらい。また、施設の場所が分かりにくいかもしれない。
- ・ 「地球市民フェスタ」は、他自治体より視察が来るほど盛況 (会場はやはりこれも「マロニエ」) で、団体にとっても活動資金獲得の大きなチャンスとなっているが、来場者がイベントの趣旨を理解できているかが疑問。団体がラウンジでオープンに開催するものとしてティーサロン等があるが、ふらっと立ち寄れるような場所でないので来場者が限定されているような気がする。
- ・ 市内の国際交流団体の全容を把握するのは難しい。団体ごとに支援する国・地域が異なるが、国・地域の枠を超えた、文字通り「地球市民」が育つようなあり方が望ましい。

#### おだわら女性プラザ (CHAT 茶っと)

男女共同参画啓発のチラシ等が充実している。授乳スペースがあったり、音楽が流れるなど、ゆったりした雰囲気、近所の OL が休憩に利用したりしている。その割に、古い建物

の故か段差等も多く、ベビーカーが入りづらい。「女性団体」という枠組みをどうとらえたらよいか、登録の当事者も戸惑いがあるように見受けられる。もっと大きく「ひと」という観点で、誰もが暮らしやすい社会づくりの発信拠点となると存在価値がさらに高まるのではないか。

#### 支援施設利用のメリット

拠点のない団体にとっては貴重な場（現在は無料なので特に）

空いていればだが、予約なしで使えるスペースがあったり、当日でも申し込める点

1時間単位で申し込める

イベントで交流、横のつながり、まなび

サポセンまつり、新年会、学習会、ボランティアコーディネート、ジャンルごとの登録団体の交流会、企業との協働、自治会との意見交換会（以上サポセン）登録女性団体代表者会議、CHAT アニバーサリー、文化祭（以上女性プラザ）

#### 望むこと

無休／事務局的機能／検索、問い合わせ／コーディネート／理想は施設の市内複数化

#### これから

案が出ている（仮）市民活動交流センターは、機能が一括になった分、運営は効率的になると思うが、便利な反面、勢いが縮小してしまわないか懸念。場所は他都市にならい、駅至近となるが、独立した建物だと、関係者以外は入りづらいので、だれでも立ち寄れるようになるとよい。また、市民活動とはいえないが、今、人が集える「場」が少ない（夜のけやきロビーに小中学生が大勢いるなど）。芸術文化創造センターにもできると思うが、組織でなくても利用でき、ひと時が過ごせる場があるとよい。さらにいえば、まちなかだけに集中するのではなく、市民に不公平感のない分布を望む。

管理者のみならず、使用者が所有感をもって運営に参加できるような仕組みづくりが必要と思われる。今後は利用料も発生してくるのはやむを得ないが、適正な負担の設定が、今後の発展の一つのカギとなるかもしれない。

どの運営体制であっても、望ましいあり方を検証する仕組みが必要かと思われる。

#### 「小田原モデル」構築に向けて

横浜で生まれ育ち、現在も横浜でいくつかの活動にかかわっているが、小田原は「適度なローカルさ」が魅力でもあり弱点でもある。「小田原」というフィルターを通した地域の特性を生かしつつ、グローバルな視点も見据えた、市民活動しやすい社会のしくみづくりが必要と感じる。

その一歩として、他の人たちが何をやっているか知ることは大変重要であり、相乗効果が生まれればうれしい。さらには、市内で活動していて、支援施設に登録していない団体までも把握できればなおよい。